

— ノート —

## 介護福祉職のユニフォームから見た介護現場の実情

古 田 貴美子

### The Present Conditions of Care Workers' Uniform in the Nursing Homes and Other Facilities

Kimiko FURUTA

#### 要 旨

介護職の活動時の服装について昨年調査した結果、事業所から支給されたユニフォームを着用しているが、不満な点が多いことも明らかになった。機能的で着心地のよいユニフォームに変えていくために、介護現場で働く人たちの意見や介助動作、必要な機能について聞き取り調査を行った。5つの施設の介護職と管理者(職)10名に調査した結果、ユニフォームとして決められた服装は、利用者に対する配慮や利用者が必要な援助の内容によって異なることがわかった。また、ユニフォームを変え、枚数を増やすことは、コストがかかることから簡単にはできない、介護施設の厳しい現実がうかがえた。

キーワード：ユニフォーム uniform, 介護職 care worker  
利用者 user, 介護現場 nursing homes and other facilities

#### I. はじめに

一般的にユニフォームは同じ衣服を身に着けることにより職業や地位を示すとともに、職業意識を向上させる役割を持っている。介護福祉職は福祉の専門職といえるが、その職業の象徴となる服装は確立されていない。その理由は、介護福祉職に要求される様々な介護活動の内容にあると推察される。感染を防ぐ見地からの衛生面に対する配慮に加えて、利用者が社会的な活動を営むための「生活の援助」に適した服装であることも必要とされる。

介護福祉職のユニフォームとして着られている衣服の実態を知るために、昨年アンケート調査を行った。その結果、介護福祉職のおよそ3分の2が決められた衣服をユニフォームとして着用しており、服種としてはポロシャツ、Tシャツ、ジャージが多く取り入れられている現状が示された。しかし、半数以上に不満があり、その不満は、素材、着心地、デザイン、色などであった<sup>1)</sup>。不満があるにもかかわらず、それらの衣服をユニフォームとしている理由はわからなかった。そこで、アンケートの結果に表れなかった実態があることを推察し、介護の現場

で働く人たちから、直接聞き取り調査を行った。

介護活動という職業の専門性から、ユニフォームを決める上で、優先される要因、求められる配慮などについて考察すると同時に、見えてきた介護現場の実情について報告する。

## II. 研究方法

前年のアンケート調査で、ユニフォームありと回答のあった施設で、実際に介護現場で働いているスタッフと責任ある立場すなわち裁量権があると思われる管理者（職）に対して、半構造化面接法により調査を行った。調査内容は、調査協力者の同意を得た上で、ICレコーダーに録音した。自由な意見が出されるように配慮しながら、1人約30分程度の聞き取りを行った。倫理的配慮としては、協力者の所属や氏名が特定されないように、個人情報を保護すること、研究目的以外に使用しないこと、聞き取り調査の途中でも止められることを約束し、了解を得た。ユニフォームの写真により施設の特定が予測されるため写真の掲載を控え、衣服の種類のみを表すこととする。

### (1) 調査協力者

A市内5ヶ所の施設および事業所（福祉施設・中間施設・有料老人ホーム・通所施設・在宅介護事業所）の管理者（職）各1名および介護職または事務職各1名の合計10名

### (2) 調査期間

平成20年3月

表1 調査協力者の属性

施設の種別	仮称	性別	職種・資格	男性職員の割合 (%)	室温調節の有無
特別養護老人ホーム A	Fさん Gさん	男性 男性	施設長・介護福祉士 介護福祉士	31.6	有
介護老人保健施設 B	Hさん Iさん	女性 女性	部長・看護師・ケアマネジャー 介護福祉士	26.3	有
有料老人ホーム C	Jさん Kさん	女性 女性	副館長・看護師 介護福祉士	25.0	有
通所施設 D	Lさん Mさん	男性 女性	管理職・介護福祉士 事務職員・栄養士	35.0	有
在宅介護事業所 E	Nさん Oさん	女性 女性	管理者・介護福祉士 介護福祉士	0	無

### (3) 調査内容

- ・ユニフォームの種類と枚数
- ・着替えの回数
- ・洗濯の場所と方法
- ・汚れの付く部位
- ・介助時の動作
- ・エプロン使用の有無
- ・ユニフォームに必要な機能
- ・外出時の服装
- ・ユニフォームに対する満足度
- ・不満な点
- ・仕事着に対する意見

### (4) 分析方法

個人面接内容の結果の分析にあたって、ICレコーダーに録音された全内容を文字化し逐語録を作成した。全体を慎重に読み進めていき、質問に対する答えならびに、会話中の文脈からユニフォームに対する考え方をよく表している「ことば」を抜き出した。ユニフォームとして着用したい服装を肯定的な服装、着用したくない服装を否定的な服装として分類し、その理由も含め、分析を行った。

管理者（職）と介護職（スタッフ）に、その立場上の見方のちがいがあのではないかと推察される項目については、両者を区別して該当するユニフォームが備えるべき機能や理想的なユニフォームを表す「ことば」による表を作成し、考察を行った。

## III. 結果

調査協力者の属性は、表1に示されるように10人中9人までが、介護福祉士または看護師の資格を持っている。在宅介護事業所では男性職員はいないが、他のどの施設でも、男性職員の割合は全職員のうち30%前後である。今回の調査施設では、ユニフォームの形について男女の違いは見られなかった。

室温はすべての施設で管理されている。有料老人ホームCでは湿度の調節もされている。

### (1) ユニフォームの種類

ユニフォームの種類と購入形態ならびに特色を表2に示す。施設においては、上衣として、半袖のポロシャツ、Tシャツ、長袖のカーディガン、トレーナーを採用し、下衣としては、ニットスラックスやジャージ、綿パンツである。丈の長いズボンを採用しているのは、大股で歩けるなどの活動性が理由であり、スカートや半パンツのように足を出すことを望んでいない。施設内は温度管理されているため、年中同じ衣服で仕事をする事ができる。介助時には、ほとんど半袖で仕事をし、カーディガンやトレーナーは室外に出るときや会議などで着用されている。

在宅のユニフォームは、サロンエプロンのみであった。家庭で着られるのと変わらない形であるが、ポケットが多く、丈夫な素材でできている。利用者のお宅を訪問するときには、「いかにもヘルパーです、みたいな服装は避けてほしい」との意向を受け、私服で移動し、仕事を始めるときにエプロンを着ける。利用者宅の温度環境を変えることはできないので訪問先によ

表2 各施設のユニフォームの種類と特色

施設	ユニフォームの種類 (枚数)	自費で購入し 着用する被服	ユニフォームの 購入形態と交換時期	ユニフォームの特色
A	半袖Tシャツ(2) 長袖Tシャツ(2) 長袖トレーナー(2) ジャージ(2)	Tシャツ ジャージ	購入(2年ごと) 傷んだら補充	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Tシャツの色は自由</li> <li>• 自前の衣服の着用も認める</li> </ul>
B	半袖ポロシャツ*(5) ニットスラックス(4) エプロン〔普段用〕(4)	カーディガン 靴(色のみ指定)	リース(期間4年) 途中のサイズ交換可 破れたとき交換可	<ul style="list-style-type: none"> <li>• スタッフがデザインを選択</li> <li>• ポケットが必要なのでエプロンを着用</li> </ul>
C	半袖ポロシャツ(4) 綿パン(4) 靴(1) カーディガン(1) ポシェット(1) 名札(1) フォーマルスーツ(1)(事務職・管理職のみ)	なし	リース(期間3年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• スタッフがデザインを選択</li> <li>• 個人ごとに好きな色を選べる</li> <li>• 色の組み合わせが多い</li> </ul>
D	半袖ポロシャツ(2) トレーナー*(2) ニットスラックス(1) 〈特養〉Tシャツ(2) ジャージ(1)	靴	購入(2年ごと) 傷んだら補充	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 職種によりポロシャツの色が異なる</li> <li>• 施設のイメージカラーがある</li> </ul>
E	サロンエプロン** (3)	動きやすい服装	購入 傷んだら買い替え	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 丈夫な素材でかなり長い期間着用できる</li> </ul>

\* 名前(個人名)入り \*\* 事業所名入り

注) ジャージ:伸縮素材を使用し,ウエストはゴムテープを使用,すそをしぼっているものとすそ幅の広いものがある  
ニットスラックス:伸縮素材を使用し,前あきファスナーとウエストベルト付きで,すそ幅は広い,無地1色である

り暑さ寒さの環境は違うが,ユニフォームを変えることはできない状況にある。

Tシャツにジャージ,運動靴の服装を取り入れているのは,特養であり,身体介助の必要な利用者が多い,すなわち介護職の労働負荷が大きいという理由からである。「足を開いて踏ん張る」動作のときに,動きやすいという理由からジャージを着用しており,伸縮性の小さい綿パンツやナーススタイルのパンツは動きが妨げられるとの意見が聞かれた。有料老人ホームやデイサービスのよな比較的介護度の低い施設では,デザインを優先してユニフォームを決めている。利用者にどう思われるかを一番に考えており,衿付きの方が衿なしよりも格が上という考え方から「ポロシャツのように衿のある方がいい」,着方については,ボタンを「3つボタンがあるなら下の2つは掛ける」というように,だらしのない着方を避けるように指導がされている。

## (2) ユニフォームに必要とされる配慮

会話の中で自主的に出てきた「ことば」を項目ごとに区分し,表にまとめた。管理者(職)と介護職,事務職では,立場上内容や見方が変わっている。表3に,管理者(職)によるユニフォームに必要な配慮と,自分たちをどう捉えているかの見方を表している「ことば」を示す。

表3 管理者および管理職のユニフォームに対する見方と必要な配慮を表すことば

施設	ユニフォームに必要な条件 仕事着に対する意見	否定的な服装 避けたい服種	介護スタッフを 表すことば	施設を 表すことば
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>動きやすさ</li> <li>コスト</li> <li>洗濯に強い</li> <li>個人的にはそこそこの節度を持って私服でもいいんじゃないか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>綿パン</li> <li>ナースシューズ(以前着用したが、動きにくい)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者の家族</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活の場</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>動きやすい</li> <li>不快感を与えない</li> <li>生活の場にスムーズにとけこんでいける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作業着</li> <li>白衣(利用者さんの警戒感と違和感がある)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>陰の存在</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活の場</li> </ul>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権重視</li> <li>ご入居者に施設であることを感じさせない</li> <li>ユニフォームに合ったスタイル、化粧をする</li> <li>服装、ヘアメイクなどに指導がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ドクタースタイル(以前着用したが、汗を吸収せず、汚れがついたので)</li> <li>へそ出しルックで来られたら困る(上司のことば)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門職</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活の場</li> </ul>
D	<ul style="list-style-type: none"> <li>動きやすい</li> <li>清潔感</li> <li>身だしなみ</li> <li>規律正しい</li> <li>相手がどう思うか</li> <li>衿付きでボタンありの形の方がいい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目立つもの</li> <li>股上の浅いズボン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者の方に選んでいただく</li> </ul>	
E	<ul style="list-style-type: none"> <li>動きやすいデザイン</li> <li>素材</li> <li>値段</li> <li>清潔感</li> <li>素敵な格好</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いかにもヘルパーですみたいな(ジャージ)はやめた方がいいと思う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者さんに合わせる</li> </ul>	

表4 介護職のユニフォームについての感想と必要な機能を表すことば

施設	現在のユニフォームに対する感想 ・満足な点 ▲不満点	必要な機能	外出時の服装
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>動きやすい</li> <li>肌ざわりがいい</li> <li>ジャージがいい(好き)</li> <li>似合う色、明るく見える色がいい</li> <li>▲蒸れる ▲トレーナーの生地が厚い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>靴が破れないこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>遠足、買物のときは私服を着る</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>最近(約2ヶ月前)変わった</li> <li>前よりはぐっといい</li> <li>動きやすい</li> <li>ジャージっぽくない</li> <li>不快感を与えない</li> <li>見た目もちょっとかわいい</li> <li>明るい感じ(色)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポケットがたくさんある</li> </ul>	
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>結構気に入っている</li> <li>衿はあった方がいい</li> <li>好きな色を好きな枚数選ぶのがよかった</li> <li>▲ジャージはいい(着たくない) ▲洗濯で縮む</li> <li>▲綿パンの伸縮性がよくない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポケット</li> <li>枚数が必要(毎日着替えられる枚数)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>買物、個別の外出は私服</li> </ul>
D	<ul style="list-style-type: none"> <li>やさしいイメージ(色)</li> <li>衛生面から必要</li> <li>職員がわかりやすい</li> <li>統一性がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動きやすい</li> <li>安くて丈夫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>私服</li> </ul>
E	<ul style="list-style-type: none"> <li>ピンクが利用者さんに好評</li> <li>動きやすい</li> <li>汚れても気軽に洗える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポケット</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>通院介助のときはユニフォームを着ることがある</li> </ul>

また、介護職が現在着用しているユニフォームについての感想と必要な機能を表した「ことば」を表4に示す。

施設におけるユニフォームは、一定の衣服を着ることで統一感があり、利用者からは職員が判別しやすいことが、利点として挙げられる。「清潔感」や「不快感を与えない」ことも重要であり、私服にした場合に、職員が奇抜で派手な格好をすることを予防する意味合いもある。デイサービス以外の施設は「生活の場」であることを意識しており、その点を考慮してユニフォームを導入した施設があった。以前ナース服を実際に着て活動をした施設もあったが、動きにくいことや、「生活の場」での白衣は違和感があることから、ユニフォームとしては適さないと意見も聞かれた。

ユニフォームの色については、ポロシャツ、Tシャツ、エプロンといった上衣には、やさしい色合いの中間色や明るく見える色がいいという意見があった。また、施設Cでは、何種類かの色の中から好きな色のユニフォームを選択し、上下衣服の配色を組み合わせることができる。

### (3) ユニフォームを決定するときの条件

表3に示されるように、実際にユニフォームを購入するときには、コスト（値段）と洗濯に対する耐久性を挙げている管理者がおり、また別の施設の事務職員Mさんからも同様の意見が聞かれた。財政的に余裕がないために「安くて丈夫」なユニフォームを求めているが、デザインや素材はスタッフに任せていいと思っている。また、ほとんどの施設の管理者（職）と介護職に、必要な条件として挙げられたのは、動きやすさであった。

### (4) ユニフォームの洗濯環境

各施設のユニフォームの洗濯とエプロン使用の状況について、表5に示す。昨年アンケート調査の結果から、洗濯の頻度が少ない人があり、ユニフォームの洗濯環境を向上させることが必要と提言された<sup>1)</sup>が、今回聞き取りを行った施設では、ユニフォームと施設内で着たものはすべて、施設から持ち出さないことが決められ、感染を防ぐための配慮がされている。施設

表5 各施設のユニフォームの洗濯とエプロンの使用状況

施設	ユニフォームの洗濯場所	洗濯頻度	着替え頻度	エプロンの区別	入浴介助時の服装
A	施設内 洗濯機乾燥機	毎日	毎日	排泄用・食事用	Tシャツ・短パン
B	クリーニング業者	週2回集配	1～2日	排泄用・食事用・普段用	Tシャツ・短パン
C	クリーニング業者	週2回集配	1～2日 *チェックあり	食事用	Tシャツ・短パン
D	施設内 洗濯機乾燥機	毎日	毎日（上衣）・ 2日（下衣）	食事用	Tシャツ・ハーフ パンツ
E	自宅	毎日	毎日	なし	なし（個人の判断）

AとDでは施設内で毎日洗濯している。施設BとCでは委託業者が定期的に集配する形を取っている。すべての施設で、着替えは毎日か少なくとも2日に1回はできる環境にある。施設Cでは、委託業者が個人ごとに洗濯頻度をチェックしており確認の助けになっている。しかし、他の施設では管理者（職）が忙しく必ずしも確認できていないことから、個人の判断に任せられる部分が多い。

エプロンの使用状況は、食事介助と排泄介助では、別のエプロンを着用し、入浴介助のときには、それに適した服装に着替えている。介助時には、半袖のシャツを着用し、長袖のときは、まくり上げる状態で着ていることがわかった。これは手洗いを特に意識しているというよりは、暑さと活動しやすさのために手首を出しており、結果として手洗いがしやすい状態である。

#### IV. 考察

今回聞き取り調査を行ったすべての施設で、ユニフォームは決められているが、上衣と下衣それぞれの服の種類は異なっていた。それは、介助の度合いや仕事の内容と関係があると思われる。特養に見られるように、身体介助の度合いが高くなると、動きやすさすなわち伸縮性を第一に考えて服種を選ぶようになる。また汗をかくことが多いので、衣服の素材には、吸水性や肌触りのよさが要求される。一方、利用者に失礼のない服装をすることを第一に考える施設もあり、すなわち衿付きのシャツとスラックスタイプのパンツを選び、ジャージや作業着とみられる服は選ばない。衣服の種類を決めた上で、着用したときに動きやすく、動いたときに背部や腹部が露出しないデザインを選択している。

昨年のアンケート時に、ユニフォームに対する不満が多かった施設の中で、アンケート後に新しいユニフォームに変わった施設があり、素材やデザイン、色に関する満足度は高くなっていた。ユニフォームへの関心が高まって、変わったと推察される。着心地のよい、またおしゃれなユニフォームを身に着けるといった感覚自体が、介護の現場ではそれまで置き去りにされてきたように思われる。規律を守りながらも快適な衣服を着用することができるように、ユニフォームの選択肢を広げることが必要である。

ユニフォームの選択にあたっては、管理者の考え方が大きいのではないかと推測していたが、介護職（着用者）の意見も取り入れられており、財政的な状況が許せば、デザインや素材のいいものを選ぶことが可能と思われる。ユニフォーム着用時の不快感を取り除くことは最低限必要なことであるが、今回の調査では経済的にむずかしい状況がうかがわれた。素材のいいものは一般的に値段が高いため、予算の制限があるために、素材のいいものを選ぶことができないか、1人に渡す枚数が少なくなっている状況である。

それぞれの施設は、ユニフォームが「利用者の生活の場にふさわしいか」「利用者はどう思われるか」を意識している。その施設の考え方が服装にも反映されており、ユニフォームが施設の特色を表していると言える。

介護を受ける利用者の立場から見ると、ユニフォーム着用により、施設内で職員がを見つけやすい、通院介助のときに家族ではないことを知らせるなど、ユニフォームの標識としての機能が活かされている。一方、社会的な活動をするときには、現状では適当なユニフォームがないと思われる。実際に買物や個別の外出の援助を行うときには、個人の認識で、ユニフォームから私服に着替えるといった対応をしていることがわかった。社会性を考えて、目的に合った衣服に着替えることが、利用者を尊重する援助につながると考える。

## V. おわりに

実際に、介護職の方から話を伺ってみると、ユニフォームが十分な枚数支給されているとはいえ、それは施設の財政的な問題に起因するが、必ずしも施設に責任があるとは思えない。構造的な問題については、今後考察を進めていきたい。

それぞれの介護現場による違いがあることも明らかである。ある施設では、「介護福祉士は給料が安いから、その分ユニフォームがあるのかと思っていた」との声が聞かれた。ユニフォームを揃えるには大変なコストがかかり、毎日の洗濯代も負担になるはずである。それでもなお、ユニフォームを着ているのは効果が大きいからだと思われる。利用者を尊重する介護をしていくために、服装を整えることも重要であるので、動きやすさや着心地のよさを持った、格好のいいユニフォームが望まれる。また、コストが抑えられるような工夫をすることも課題である。今回の聞き取り調査により、質問紙法で明らかにならなかったユニフォームの着衣の状況を具体的に聞くことができた。質的な研究の緒であるので、今後は調査人数を増やし大勢をつかむことが重要と考える。また、時間的な経過とともにユニフォームに対する見方が変化していくことが予測されるので、継続して観察していくことが必要である。

謝辞 本調査に快くご協力くださいました事業所の皆様に心より感謝いたします。

介護福祉の立場からご助言いただいた黒田しづえ先生に謝意を表します。

## 引用文献

- 1) 黒田しづえ, 古田貴美子, 横山正子: 介護福祉関係職のユニホームに関する調査報告, 神戸女子短期大学「論攷」第53巻, 111-118 (2008)

## 参考文献

- 2) nuc 編: 「ざ・ゆにふおーむ -ファッションデザインの原点-」(財)日本ユニフォームセンター, 源流社(1991)
- 3) ミリアム・モス, 柴田克子訳: 「シリーズ世界の服装1 ユニフォーム・制服」リブリオ出版(1990)
- 4) 高木修監修, 大坊郁夫・神山進編集: 「被服と化粧の社会心理学」北大路書房(1996)
- 5) 上野千鶴子他: 「ケアその思想と実践6 -ケアを实践するしかけ-」岩波書店(2008)